

| | |
|---------|--|
| 6. 事業内容 | <p>■全体</p> <p>妊産婦・新生児保健(MNCH)に焦点を当てた、質の良い保健サービスの利用へのアクセスの増加を目的に、保健センター・母子保健棟の改築とマタニティハウス(出産待機ハウス)およびユースセンターを3地区(マサイティ郡ムタバ、ムポングウェ郡カルウェオ、ミカタ)に建設し、総合的に保健サービスを提供する拠点(ワンストップサービスサイト)づくりを行い、あわせて保健医療従事者の研修等を通じて質の良い保健サービスを提供する技術を高める。また、ワンストップサービスサイト(3地区)を含めた10地区(マサイティ郡の5地区及びムポングウェ郡の5地区)の母子保健推進員(Safe Motherhood Action Group:SMAG)および保健医療従事者の育成を通して、コミュニティレベルでの啓発教育活動により住民の意識を高め、行動変容の促進を通して、妊産婦・新生児保健の向上を目指す。(添付1:2014年報告書、添付2:プロジェクトサイト地図、添付3:ワンストップサービス概念図)</p> <p>■2年次の目標</p> <p>1年次に設立するワンストップサービスサイトの有効性についてのアセスメントを保健サービス利用者及び提供者へのインタビューなどを通してレビューを行い、より質の良いサービスが提供できるよう改善する。また、継続ケアのための保健施設と地域の連携体制の持続可能なシステムをつくり地域でのさらなる連携強化を目指す。</p> <p>■2年次の活動</p> <p>1. 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育を行う</p> <p>①「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修」の実施</p> <p>1年次に、保健医療従事者および母子保健推進員(SMAG)を対象に、視覚的に妊娠・出産の仕組みがわかる教材(マギーエプロン)を有効活用した「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修」を実施した。1年次のニーズと活動計画にもとづいたフォローアップとして、保健医療従事者および10地区のSMAG250名を対象に、2日間の「行動変容のためのコミュニケーション技能強化再研修」を実施し、教材を活用したコミュニティでの効果的な啓発教育活動をさらに強化する。</p> <p>②「ピア(仲間)教育/リーダー研修」の実施</p> <p>ワンストップサービスサイトである3地区の若者ピア・エドゥケーター12名およびユースを担当するSMAG12名を対象に2日間の「ピア(仲間)教育/リーダー研修」を実施し、思春期層への啓発教育活動を強化する。</p> <p>2. 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上</p> <p>①ワンストップサービスサイトの整備</p> <p>ムポングウェ郡カルウェオ保健センターをワンストップサービスの拠点とし、母子保健棟の建設、出産に必要な医療機材の供与、マタニティハウス、ユースセンター、助産師の住居棟の建設を行い、妊産婦・新生児、若者への保健サービスを1ヶ所に集中させ、コミュニティにとってより身近に必要なサービスや情報が得られる場所を整備する。また、安全なお産に向けたメッセージや若者へのメッセージを含めたデザインや絵をマタニティハウスやユースセンターの外壁に描くためのペインティングワークショップを開催する。SMAG や若者ピア・エドゥケーターなど住民のワークショップへの参加を促し、ボランティアのモチベーションやオーナーシップ(主体性)の向上を目指し、住民の保健サー</p> |
|---------|--|

ビスへのアクセスをさらに増やす。

②1 年次のワンストップサービスサイトのアセスメントの実施

1 年次に建設したワンストップサービスサイト(ムタバ地区)の利用状況やサービス状況をアセスメントし、妊産婦・新生児保健サービスの利用者、マタニティハウスやユースセンターの利用者、サービス提供者である保健医療従事者、SMAG、若者ピア・エドゥケーターなどへの個別またはグループにて質的インタビューを行う。ワンストップサービスであることの有効性や利用者にとってより親切で利用しやすいサービスであるかについてのアセスメントを行い、より質の良いサービスへの改善を目指す。

3. 継続ケアのための保健施設と地域の連携体制整備

①プロジェクト 2 年次スタートアップ会議の開催

1 年次のプロジェクトの成果および 2 年次の活動計画の共有・確認について、プロジェクト運営委員会を兼ね関係者間で開催し、2 年次のプロジェクトを開始する。また、マタニティハウス設計のための参加型ワークショップもを行い、併せてワンストップサービスサイトの計画を作成する。

②プロジェクト運営委員会の開催

プロジェクト運営委員会(地区レベル Local Steering Committee、郡レベル Project Steering Committee)を年に各 1 回開催し、プロジェクトの進捗状況の確認、各地区での課題と好事例の収集と共有を図る。

③SMAG レビュー会合の開催

10 地区において、月例会合を行っているが、年間レビューとして、各地区で SMAG のレビュー会合を行い、各地区の課題と好事例などについて共有および確認を行う。

④本邦研修の実施

1 年次に母子保健推進員(SMAG)を育成し、地域での啓発教育活動が開始された。2 年次は質の良い母子保健サービスを提供するための母子保健推進員を含む関係機関の連携強化や持続発展に向けたシステムづくりを行う。1 年次に SMAG の活動が開始され、地域でのニーズを鑑み、最も効果的な技術移転の方法として、母子保健大国といわれる日本において、プロジェクトの中核となる参加者 6 名(郡保健局(マサイティ郡、ムポングウェ郡)、ザンビア家族計画協会、保健省、地域開発母子保健省)を対象に本邦研修を実施する。

研修では、日本の地方行政と地域の保健ボランティアである母子保健推進員等との連携による活動が母子保健サービスを向上させ、妊産婦死亡や乳幼児死亡の低減に果たした役割とメカニズムについて、母子保健推進員制度等の先進県と言われる長野県で学ぶ計画である。母子保健推進員を中心に関係諸機関が連携しながら質のよい母子保健サービスを提供するシステムづくりを学ぶためには、日本の現場で、地方行政、保健所、母子保健推進員、母子保健関連団体等がどのように各々の役割を担い、どのように連携・協力しながら地域の母子保健を向上させる活動をしているのか、様々な機関のそれぞれの立場から具体的な活動内容および直面している問題や課題を直接現場で学び、包括的な母子保健サービスのシステムのあり方や持続発展のためのシステムづくりについて修得することが不可欠である。

また、日本では、産前から乳幼児を対象とした「継続ケア」の観点から母子保健情報や

| | |
|--------------------------------|---|
| | <p>サービスが提供されており、それは本プロジェクトのワンストップサービスによる継続ケアを強化する仕組みにつながっている。そのため、本研修では、産前から乳幼児期という時間的流れを一体とした途切れない母子保健サービスを提供する体制づくりについても、関係機関がそれぞれどのような役割を担い、連携しているのかを学ぶこととする。</p> <p>長野県での視察後に、研修参加者全員で学びや課題を共有し、知見を共有するとともに、専門家の助言や指導のもとザンビアでどのような取り組みが可能かつ有効であるかを協議・検討する時間も設け、「地域の連携による妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のための持続可能なシステムづくりワークショップ」にて発表する。</p> <p>本研修により、中核となる人材を育成し、日本の母子保健向上の経験を活かした本プロジェクトをモデルとし、ザンビアの目指す「地域連携強化による妊産婦・新生児保健のアプローチ」を全国に拡大していくことが期待できる。</p> <p>⑤「地域の連携による妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のための持続可能なシステムづくりワークショップ」の開催</p> <p>保健医療従事者、SMAG、地域の連携による妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のための持続可能なシステム作りに関するワークショップを、郡保健局、各地区保健医療従事者、SMAG や地区プロジェクト運営委員会メンバー、中央省庁を含めた 42 名を対象に開催する。本邦研修での学びを取り入れ、地域ネットワークの連携による情報の伝達・共有の仕組みを構築し、持続可能なシステムと継続ケアの体制をさらに強化する。</p> |
| <p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p> | <p>①これまでの事業における成果(実施した事業内容とその具体的成果)</p> <p>本プロジェクトが 1 年次に達成することを期待される活動・成果は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プロジェクトの運営体制が整う 2) 家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く 3) プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質が向上する 4) 継続ケアのための保健施設と地域との連携・協力体制が整う <p>1)プロジェクトの運営体制が整う</p> <p>プロジェクト開始後、地区レベルでのオリエンテーションがプロジェクト対象である 10 地区において実施された。各地区における既存の保健委員会を活用し、住民リーダーや保健医療従事者、SMAG、宗教指導者、教師などで構成される 10 名の地区レベルプロジェクト運営委員会(Local Steering Committee:LSC)が整備された。また、2 日間のプロジェクトスタートアップ会議をプロジェクト関係者による参加でンドラ市にて開催し、本事業の目的や各関係者の役割について確認し、ワンストップサービスについての特徴や有効性、また事業の持続可能性についても討議を行い、プロジェクトへの理解を深めた。</p> <p>2)家族計画、産前・出産・産後ケア、性感染症を含む正しい知識と情報が地域住民に届く</p> <p>ムポングウェ郡において 100 名の SMAG の育成、ワンストップサービスサイト(ムタバ地</p> |

区)の若者ピア・エドゥケーター20名の育成(自己予算)が完了し、産前産後ケア、施設分娩に関する妊産婦・新生児保健、望まない妊娠の予防や性感染症の知識や情報についてコミュニティでの啓発教育活動の準備が整い、家庭訪問やグループでの啓発活動が展開されている。

効果的な IEC/BCC 教材作成については、妊娠シミュレーター及びマギーエプロンの現地語翻訳が完了し、下半期に行われる保健医療従事者及び SMAG に対しての「クライアントフレンドリーサービス研修」や「行動変容のためのコミュニケーション技能強化再研修」にて活用される。

3)プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健のサービスの質が向上する

ムタバ地区における母子保健棟、マタニティハウス、助産師住居、ユースセンター4棟の建設及び医療機材の供与について予定通り進捗し、9月に予定されるペインティングワークショップ・開所式に向けて準備を進めている。開所式後に、より質の良い包括的なサービスを開始する。マタニティハウス設計に関するワークショップは、プロジェクトスタートアップ会議にて実施し、プロジェクト関係者に対しても理解を深めることができた。

施設の維持管理については、プロジェクト期間中は、郡保健局(土木建設担当)も含む保健センターおよび各地区のプロジェクト運営委員会(LSC)などによる合同モニタリングを四半期に実施する。郡保健局を主体とした、住民参加型による運営管理の体制を整える。プロジェクト終了後も、郡保健局のもと、地区プロジェクト運営委員会と連携協力し、施設の維持管理を行う。また、郡当局で予算化できるよう体制を整える。

4) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携・協力体制が整う

1)に上述した通り、地区レベルのプロジェクト運営委員会(LSC)が整い、各地区にてLSCレビュー会合が開催された。地域での保健に関する住民の行動変容などの好事例(グッドプラクティス)、あるいは直面する課題についての討議が行われ、地区での月例会議で共有するシステムが整い、今後の地域連携強化に向けたステップとなった。

②これまでの事業を通じての課題・問題点

- 1) これまで人材育成をした SMAG や若者ピア・エドゥケーターの活動をより明確に提示できるようモニタリングツールの開発とその活用に関して具体的に協議する必要がある。活動報告書は既存のものがあるが、各地区にて報告書をレビューし、モニタリングが効果的に行われるためのツール(フォーマットやチェックリストなど)の作成を地区運営委員会や SMAG、また郡保健局等と協議し検討することが求められる。また、活用方法に関しては SMAG や保健スタッフに対し共通の理解が得られるようトレーニング時や各集会において定期的に情報共有していく必要がある。
- 2) ムタバ地区においてワンストップサービスが9月の開所式以降に開始されるが、効果的で質の良いサービスを提供するためにも保健医療従事者及び SMAG、若者ピア・エドゥケーターと連携・協力の強化が必要となる。

③上記②に対する今後の対応策

- 1) 下半期に予定されている SMAG および保健医療従事者を対象にした研修や SMAG のレビュー会合、またはプロジェクト本部スタッフの訪問時などにモニタリングにつ

| | |
|---------------------------|---|
| | <p>いての協議を行う。既存の活動レポートの見直し、各地区でどのようなプロセスで収集し、レビューを行うか、討議し、効果的なモニタリングの方法について明確にし、改善する。</p> <p>2) 下半期に開催予定の「母子保健推進員スーパーバイザー及びクライアントフレンドリーサービス研修」にて保健医療従事者、SMAG などの関係者間のチームワークの重要性や、地域での連携強化についても含めた研修とする。また、ワンストップサービスサイトのサービス開始後には、保健医療従事者が具体的に地域の SMAG 及び若者ピア・エドゥケーターを指導・監督し、継続した活動を実施していくか、各ステークホルダーの役割を再確認し、ワンストップサービスにおける活動のフローおよび関係者の動きについて明確にし、さらなる連携強化を図る。</p> |
| <p>8. 期待される成果と成果を図る指標</p> | <p><2 年次の成果と指標と確認方法></p> <p>成果①プロジェクト運営体制が整う</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地区プロジェクト運営委員会レビュー会合が年に 1 回、郡レベルプロジェクト運営委員会が年に 2 回開催され、モニタリングが行われる。(活動報告書、会議議事録) <p>成果②家族計画、産前・出産・産後ケアを含む正しい知識と情報が地域住民に届く</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 家族計画・産前・出産・産後ケア・施設分娩の重要性を含めたセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス(SRH)に関する知識や情報を得た住民の数が年間 4 万人以上になる。(母子保健推進員、若者ピア・エドゥケーターによる報告書(健康教育セッション数、参加者数)) ➤ 望まない妊娠の予防や性感染症の知識や情報を得た若者(15~24 歳)の数が年間 1 万人以上になる。(母子保健推進員、若者ピア・エドゥケーターによる活動報告書) <p>成果③プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質が向上する</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1 年次に完成したワンストップサービスサイトであるムタバ地区の保健施設で母子保健サービスを利用した女性の満足度が基礎調査時の 84%から 94%以上に向上する。(サービス利用者聞き取り調査) <p>成果④継続ケアのための保健施設と地域間の連携体制が整う</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ SMAG が産前産後の女性および新生児の健康状態について毎月 SMAG がとりまとめ、保健医療従事者へ報告する。(活動報告書) ➤ SMAG との連携により分娩計画(バースプラン)を活用する妊婦が平均 71%から 2 年次終了までに 80%に増加する。(活動報告書) ➤ 本邦での母子保健事業を好事例とし、地域と行政の繋がりや連携協力システムや保健師の活動を含む地域のセクター間の協働について理解度が向上する。(研修前後のアンケート) ➤ 住民参加型の妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のための持続可能なシステム及び包括的かつ継続ケアの体制が整備される。(活動報告書) |